

親鸞紀行 丹羽文雄

歴史と文学の旅

● 平凡社

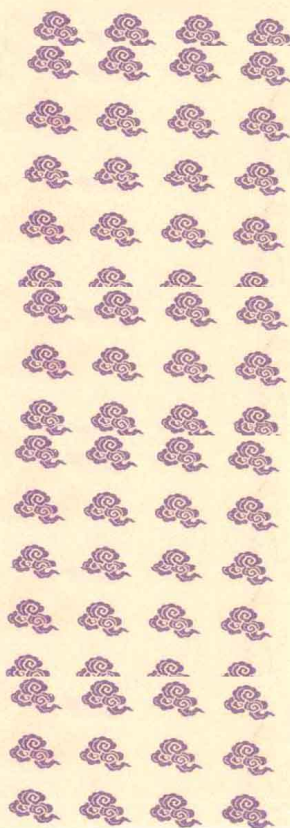


歴史と文学の旅

● 平凡社

親鸞紀行

又雄



歴史と文学の旅 親鸞紀行

昭和47年11月10日 初版第1刷発行

定価 750 円

著者 丹羽文雄

発行者 下中邦彦

発行所 株式会社 平凡社

東京都千代田区四番町4番地1

郵便番号 102 振替 東京 29639

電話東京 (03)-265-0451

印刷 株式会社東京印書館
フォト・タイプ株式会社

製本 和田製本工業株式会社

© 丹羽文雄 1972

0326-438030-7600



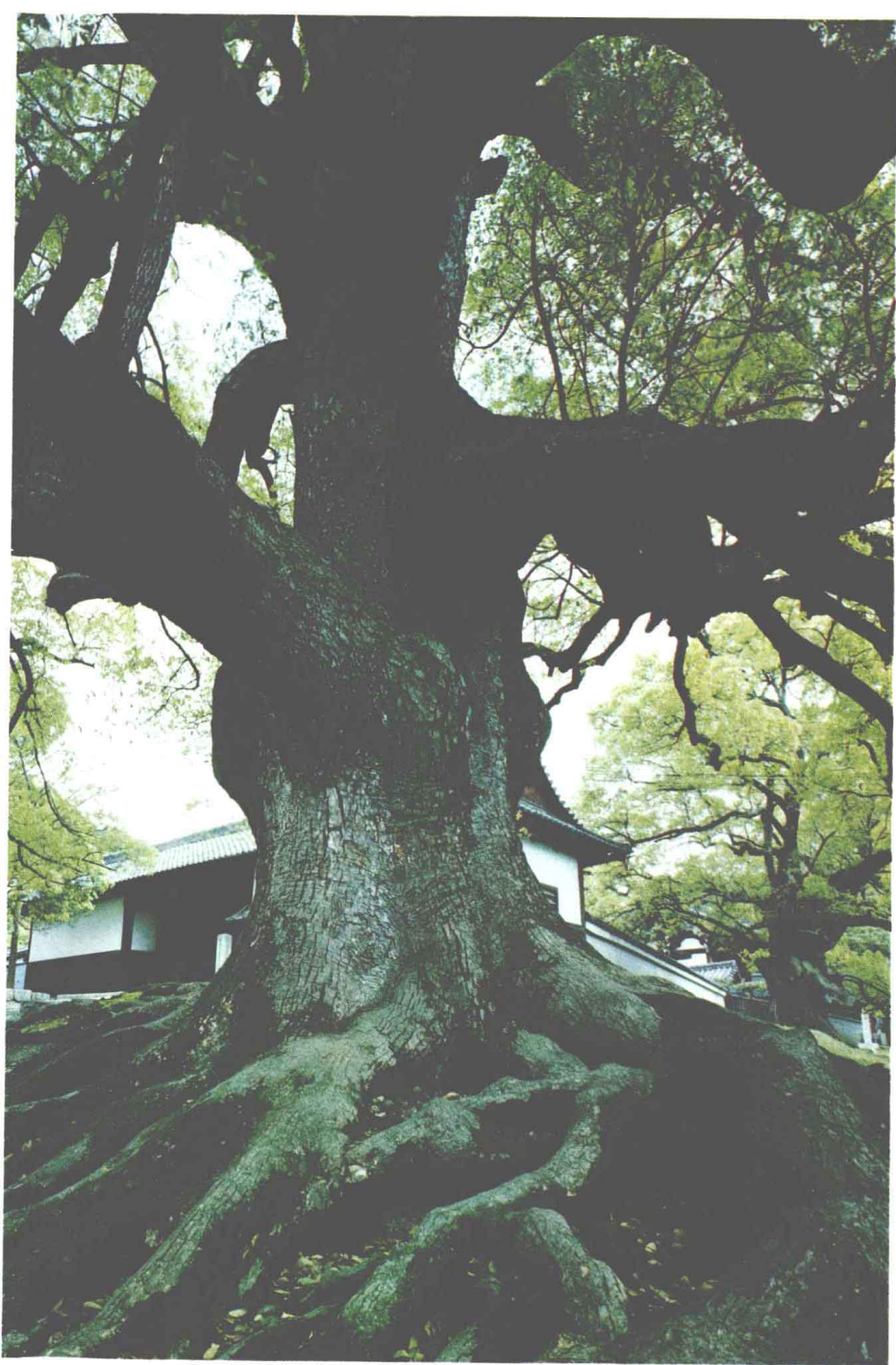
親鸞聖人像（安城御影部分・東本願寺蔵）





承安3年(1173年)聖人は京都日野の里に、日野有範の子として誕生。藤原一族の末流であった。▲父有範の墓。日野法界寺の裏手にある。▼誕生の地遠望。中央が法界寺。▶「親鸞聖人絵伝・出家学道」より(岡崎市妙源寺蔵)聖人が9歳で出家する光景

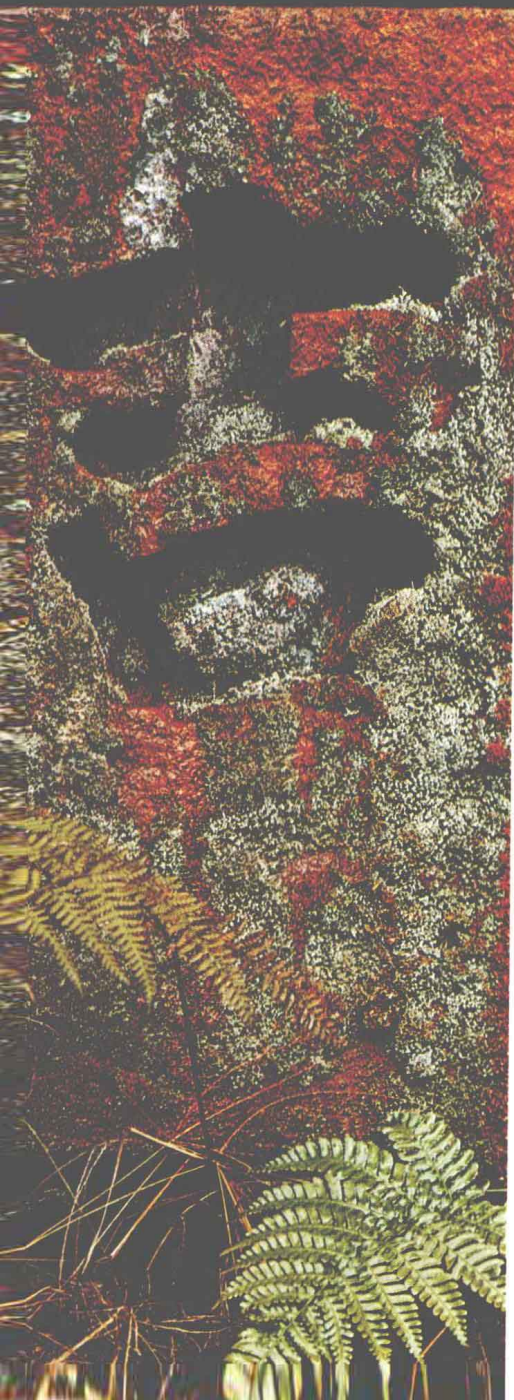




出家の寺青蓮院。またの名を栗田御所。いまなお堂々たる格式を保つ古寺である



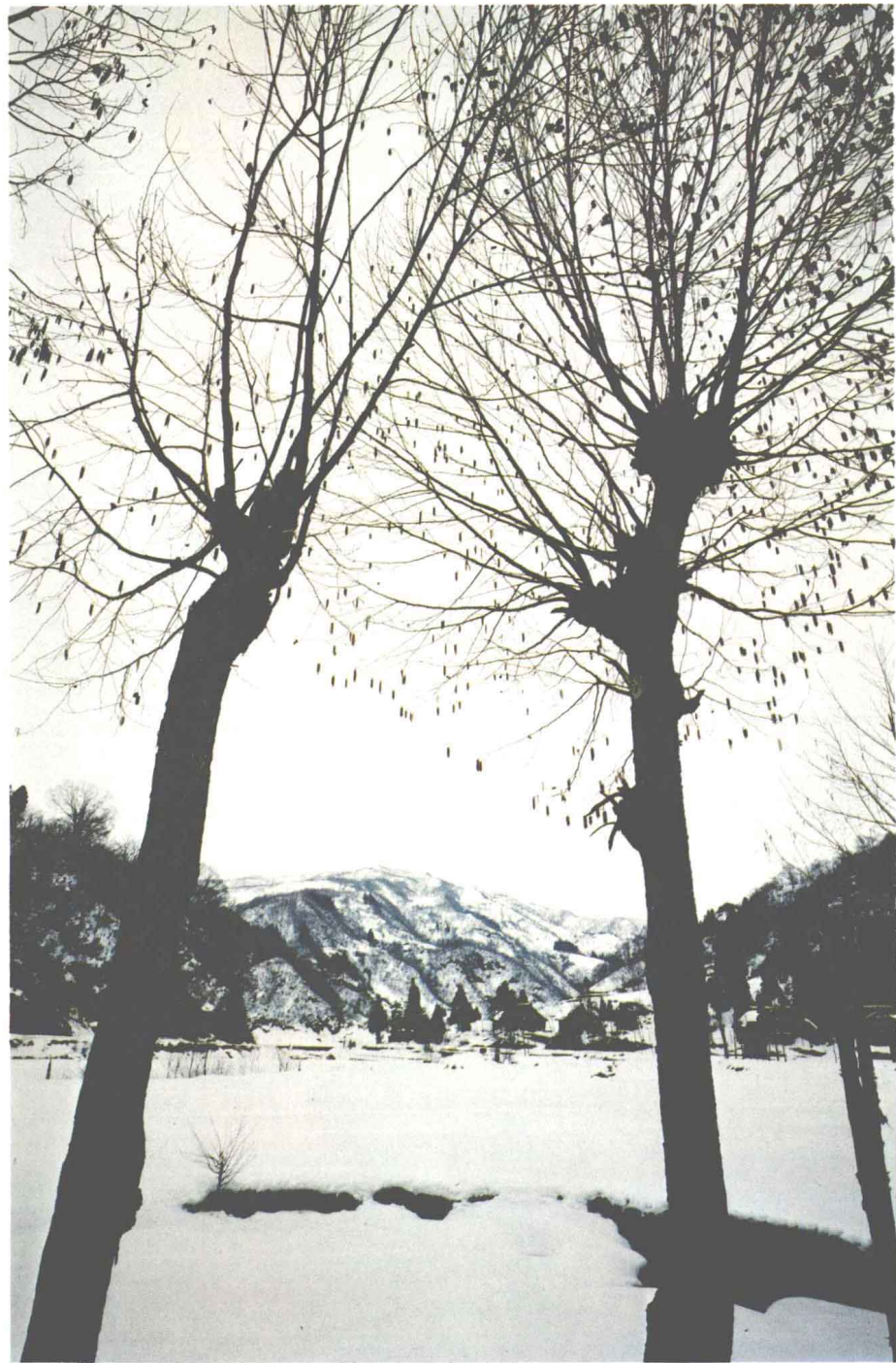
出家した聖人は比叡山にのぼり，修行の時代に入る。その間20年。写真は根本中堂



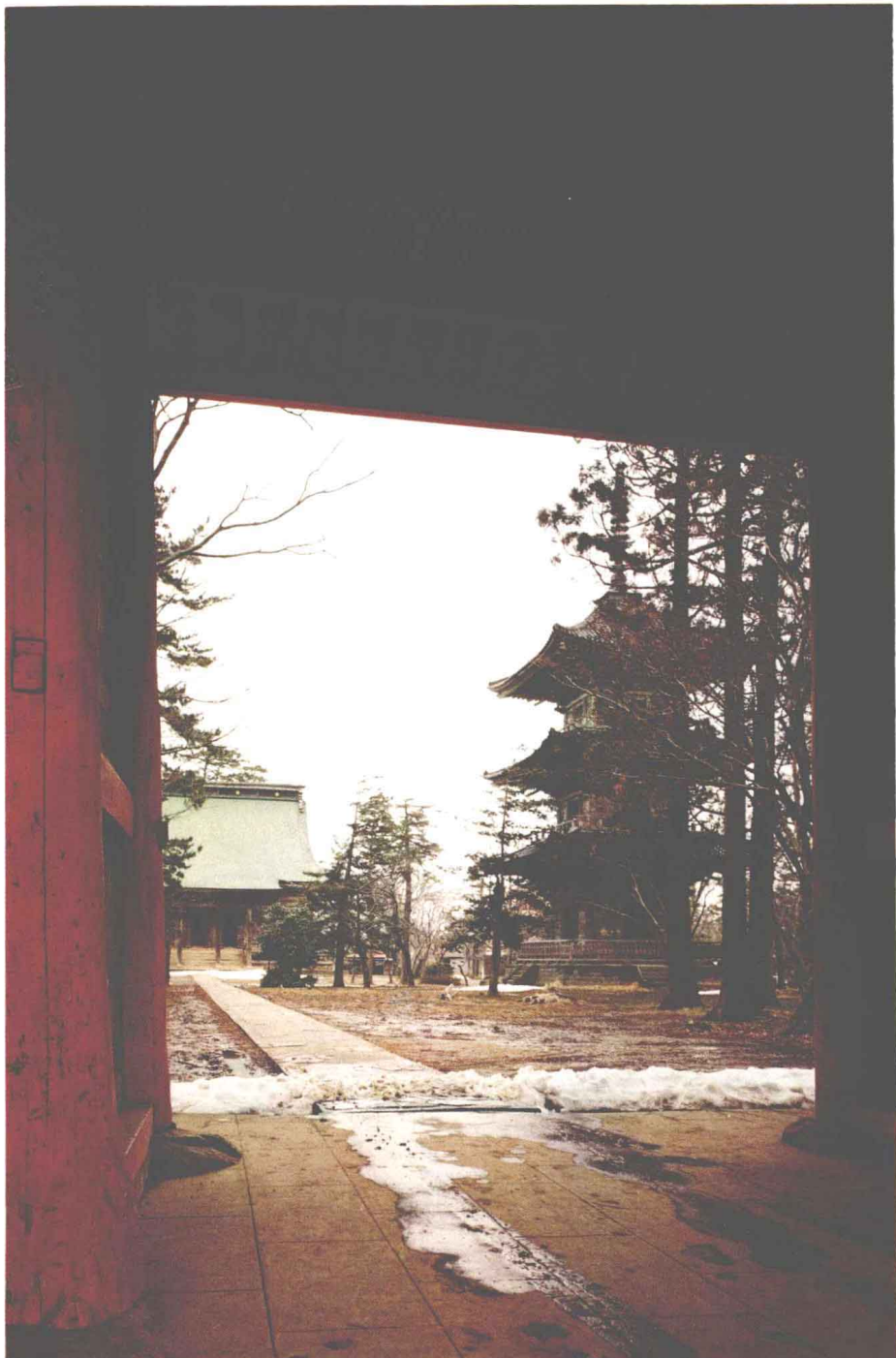
形式に堕した教義に失望した聖人は比叡山を下り、六角堂に参籠。聖徳太子の夢告を受けて、吉水草庵の法然に帰依する。この修行はその一生を決した。▲六角堂頂法寺。◀吉水の井戸。▼吉水草庵跡安養寺裏山の法垂窟。聖人勉学の跡という







建永2年(1207年)念仏停止の宣旨が下り、師の法然は土佐へ、聖人は越後へ流罪となる。com



聖人は越後国分寺境内に草庵を結ぶ。越後は厳寒の季節であった。苦難の時代が始まる

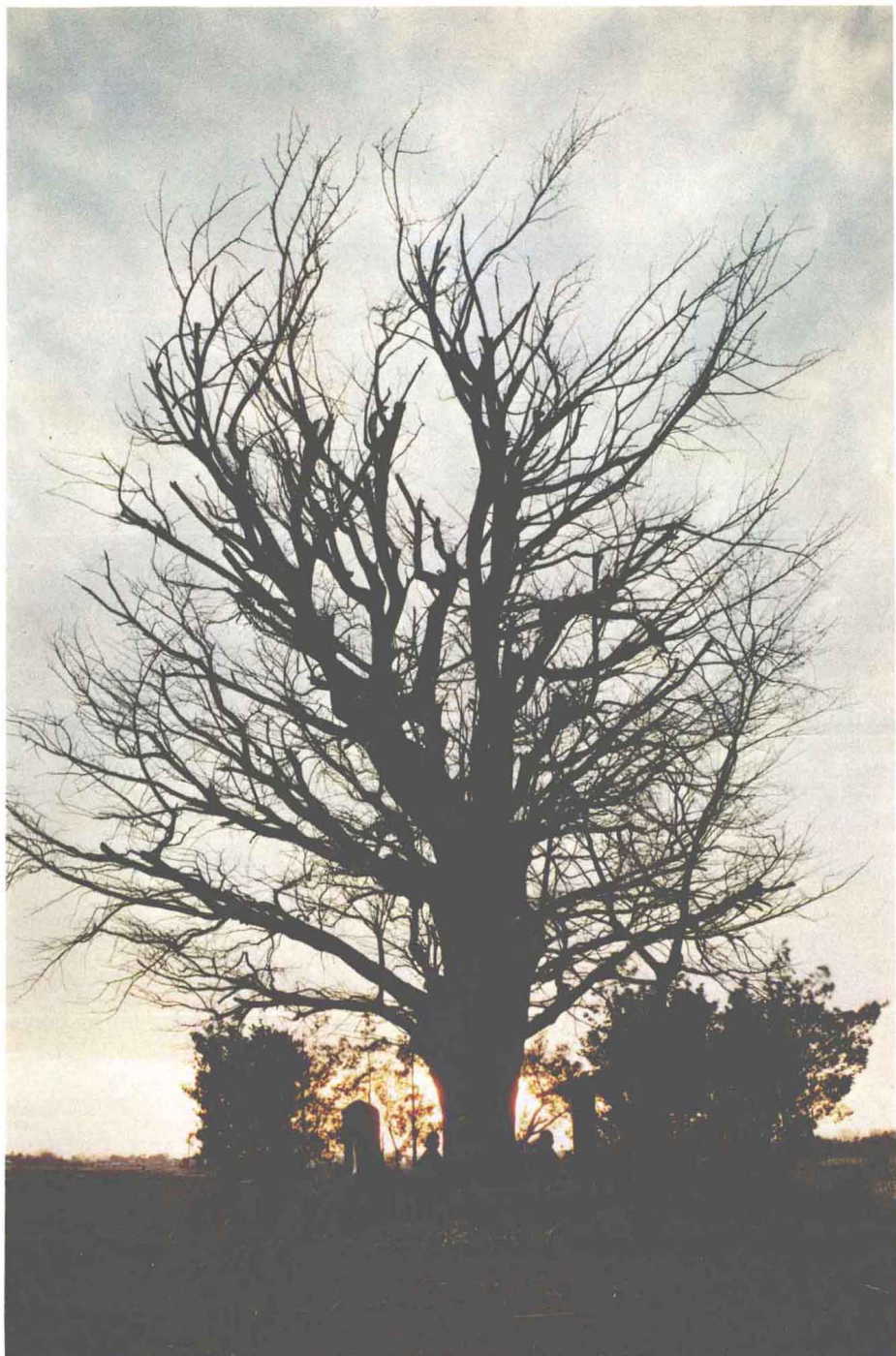


僧籍を剥奪された聖人は「僧に非ず、俗に非ず、このゆえに禿の字もて姓」の愚禿親鸞を名のる。苦難のなかに、激動の歳月が流れたが、布教への情熱は衰えなかった。◀その波乱の生活を伝える「親鸞聖人絵伝・国分寺草庵ほか」(妙源寺蔵) ▼聖人の妻帯はその強靱な思想の実践であった。恵信尼公の墓は越後新井にある





越後居多ヶ浜。流罪の聖人は直江津のこの浜に上陸した。日本海の鉛色の荒波をまともに受けて



下妻の小島草庵跡。流罪勅免を受けた聖人は、建保2年(1214年)この関東の地へ赴いた

野山行

觀馬圖



